

フェローシップ・ニュース No.120



沖縄の女性施設でプログラムを体験してきました!

事務局長 志立 玲子

8月25日(金)、私は沖縄にある女性やLGBTQ+の依存症回復施設「Grand Amor」を訪問し、見学してきました。その中で数年前より始めた魅力的なプログラムの体験をさせていただいたのでご紹介します!

1つ目は「フラ」プログラムです。ハワイの伝統フラを学んだ精神保健福祉士の資格をお持ちの先生が隔週で来てくださいます。メンバーの気持ちの分かち合いから始まり、先生からハワイの伝統や文化についてお話されるのを聴き、心の底からアロハの気持ちを持って楽しめるよう取り組んでいました。メンバーはこのフラを毎回楽しみにしていて、今年の12月に先生のスタジオの発表会(ホイケと言います)に出演させてもらえるとのことで、必死に振り付けを覚えていました。歌詞の意味について、また曲に込められたメッセージも一緒に考え読みとりながら身体を使って表現していきます。私も一緒に踊らせていただきましたがとても楽しく、またハワイアンミュージックを聴いているだけでも癒され、幸せな時間を過ごすことができました。先生の持つアロハスピリットをメンバーたちも感じ取っているようでした。



メンバーみんなに愛 されている葵先生

特定非営利活動法人 アジア太平洋地域 アディクション研究所

発行日 2023年9月1日

APARIとは、アジア太 平洋地域アディク ション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute)の 略称です。

全国のDARCやMAC等の 社会復帰施設、福 祉・教育・医療・司 法機関と連携しながら らようとする方々を りようとするシンク などのです。

<スタッフの感想>

毎回始める時と終わりに一人ずつ「いま」の気持ちを話します。リラックスできているからか、普段のミーティングよりも皆の表情が柔らかく飾らない言葉で正直に自分の感情を話せています。初めは照れがあったメンバーも、何度か受けるうちに笑顔でフラを踊れるようになります。何よりも先生の素敵なフラを見ることが一番の癒しだと見学の仲間も語ります。12月に、初めて舞台でのお披露目ができることとなり、本番に向けて皆で練習に励んでいます。





フラとは・・・ハワイ語のHula「フラ」は「踊り」を意味します。 その昔、古代ハワイアンには文字というものがありませんでした。美しい島には、明るい日差しと豊かな自然があり、その自然を神にたとえ、人々は暮らし、共存していました。

古代ハワイアンが神への信仰の表現や、体験、出来事を後世に伝える手段として、「フラ=踊り」が広まりました。また、すべてのものに精霊「マナ」が宿ると信じていて、神様・自然への感謝の気持ちと祈りをとても大切にし、それを「フラ」で表現しています。

目次:

沖縄の女性施設でプログラムを体験してきました!…志立	1
アパリの司法サポート で繋がった女性の体験 談…不二子、ひかり	3
支援につなげる覚せい 剤事件の弁護術… 髙橋洋平 コラム 心のつぶやき日 記…タケ	5
藤岡ダルク入寮者から のメッセーシ・・・ザッキー アパリは薬物検査キッ トを販売しています!!	6
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8

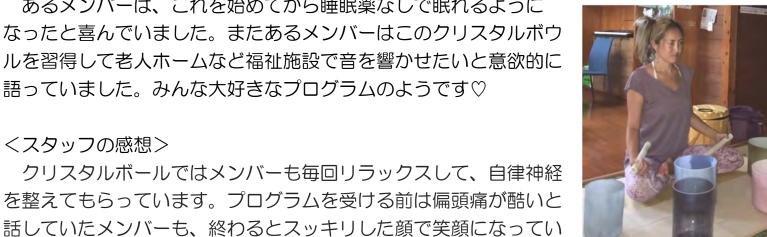
2つ目は午後に行われた「クリスタルボウル」プログラムです。これ は水晶でできたボウルを棒で叩いたり擦ったりして音を響かせるもので す。この響きを聞きながら瞑想したりお昼寝したり各自好きなように過 ごします。

最初に先生が一人一人の身体に触れていき、力を抜くようアドバイス してくれます。そして力が抜ける感じがしてきて、身体が畳に沈み込ん だようなお任せの感覚です。私も60分間、その感覚を味わいながら、 クリスタルボウルの響きを聴いていると直ぐに眠りに落ちそうになりま す。終わってからもしばらく心地よい状態が続いていました。

あるメンバーは、これを始めてから睡眠薬なしで眠れるように なったと喜んでいました。またあるメンバーはこのクリスタルボウ ルを習得して老人ホームなど福祉施設で音を響かせたいと意欲的に 語っていました。みんな大好きなプログラムのようです♡

たりします。肩、腰の痛みがあるメンバーも先生に優しく触れて貰

い、痛みの軽減がみられたりと身体と心のリラックスに繋がってい



メンバーたちの憧れ 秋村先生



先生が持ってきた クリスタルボウル

クリスタルボウルの効果を以下にまとめてみました!

【身体面の効果】

ます。

クリスタルボウルの波動は、クリスタルの成分であるケイ素と骨の中のケイ素が共鳴する ため、体内の有害物質がお掃除され、脊椎と共鳴したクリスタル波動が神経伝達を正常化 すると考えられています。骨の中には血液を製造する組織、骨髄があります。波動が骨と 共鳴することで、新鮮かつ正常な血液の生産が早まるといわれています。さらにクリスタ ルの繊細な振動は血液に微細な振動を起こし、それがドロドロ血液の分解・排出を促し、 血液をサラサラにします。

【精神面の効果】

クリスタルボウルを演奏したり、聴いたりすることによって心身のストレスがとれ、深い リラクゼーションが得られます。ストレスで高まっている交感神経の働きを抑制し、その 代わりに副交感神経が刺激されます。それにより心身の緊張がほぐれてストレスが解放さ れます。脳波はアルファ波からシータ波にまで達するので、自然治癒力が高まり、心身の ストレスから来る諸症状が改善され、心と身体が同時に癒されます。



にクリスタルボウルの響きを 伝えています。 その後、指の赤い腫れはひい ていました! 不思議ですね!!



クリスタルボウルの響きで癒され眠る メンバーたち。一番手前が私です。 ⇒ あまりにも感動したので私も一つ クリスタルボウルを購入することにしました!



アパリの司法サポートで繋がった女性の体験談1

『沖縄の女性ハウスに繋がって』

不二子

年号が変わろうとする頃、覚醒剤で16回目の逮捕。天皇即位の祝賀ムードで賑わう、霞が関 周辺を護送車に揺られ、手錠とロープに繋がれたまま、平成最後の日を裁判所で、令和最初の日 を地検で過ごすハメになった。

勾留直前、弁護士とアパリの尾田氏に連絡するも連休を前にどちらも不在。要件と所轄署を留 守録に残し電話を切る。世の中10連休、その後もどこにも連絡が取れず弱り切っていた頃、ア パリの髙橋洋平弁護士が接見に来てくれた。髙橋先生を選任し、連休明けには尾田氏も志立さん を伴って面会に来た。

髙橋先生は裁判のことはもちろんなのだが、それ以上にその後のことを気にかけてくださり、 ダルク入寮を勧められ、渋っていたら「沖縄どう? 海も空もキレイだよ、森さん(代表の 方)って白馬に乗った王子様だよ!会ったらわかるよ!」と満面の笑みで話す。

裁判には、アパリに繋げてくれた月刊「創」の篠田編集長と志立さんと、森さんが情状証人と して出廷。判決は3年4月。栃木刑務所に送られる。その後令和4年7月に出所して身元引受人と なった森氏が共同代表を務める沖縄のダルク女性ハウス「Grand Amor」で13カ月のリハビリ 生活中。

入寮して直ぐの頃は、家族や友人、知人と連絡を取らせてもらえないこと、デジタル機器が一 切持てず、不満ばかり言っていました。でも気候はとても過ごしやすいし、スタッフの方もとて もユニークで情熱的で、エイサー、ヨガ、フラ、クリスタルボウルといったプログラムも充実し ていて、回復がすごく楽しかったので、なんだかんだと先日もNAのクリーン1年のバースデーを 迎えることができました。

62歳のエイサーデビューだったり、今年12月にはフラの発表会もあったりで、身体を動かし ながらの回復です。

以前にもダルクや自助グループに繋がる機会は何度かあったのですが「使わずに生きること」 の尊さをわかりながらも「使いながら生きること」の難しいがおもしろい生き方をどうしても捨 てる気持ちにはなれず、繋がることを頑なに拒んでいた。

ダルクに来て「使わずに生きること」と「使いながら生きること」の選択に困惑を抱えながら も"それ"を他者や自分より偉大な力に委ね導いてもらう生き方を、今日一日ずつ積み重ねる仲 間に接し「なんだ、私ももっと早く繋がれば良かったな」と思う。

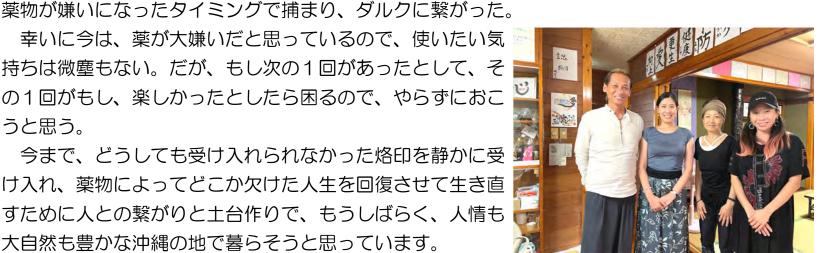
19才で大麻、3年後には覚醒剤、結婚、出産を機に7年使わない生活をしていたものの、夫の アルコールの問題等で、下戸の私は再び夫と共に薬物使用を始めてしまう。

薬物使用歴は43年だが、うち18年収監、10年クリーン、どっぷり使っていたのは15年。 今回、薬物の中に以前のような安らぎや、おもしろさを全く感じられなくなり、代わりに不快 感と絶望を見るようになった。使えば至福の時が訪れたのが、使っても楽しくなくなり、心底、

幸いに今は、薬が大嫌いだと思っているので、使いたい気 持ちは微塵もない。だが、もし次の1回があったとして、そ の1回がもし、楽しかったとしたら困るので、やらずにおこ うと思う。

今まで、どうしても受け入れられなかった烙印を静かに受 星 け入れ、薬物によってどこか欠けた人生を回復させて生き直 すために人との繋がりと土台作りで、もうしばらく、人情も 大自然も豊かな沖縄の地で暮らそうと思っています。

再生のために。



左から森代表、志立 不二子、ひかり

不二子さんは月刊「創」 の篠田編集長の紹介で アパリに繋がりました。 一つ前の受刑中からの 支援でしたが、その時の 出所時にはリハビリに繋 がらず・・・。

最後の逮捕を機にダル クに入寮する決心をしま した。



不二子と森代表





アパリの司法サポートで繋がった女性の体験談2

『今日が最初の日。私の残りの人生の。』

ひかり

ひかりさんは、最初の逮捕 時に刑事さんの紹介でアパ リに繋がりました。

保釈中と裁判終了後にダルクに繋がったものの、退寮してからはうまくいかず・・・。 今回の逮捕を機に本格的にリハビリに専念するということで沖縄の女性施設に繋がりました。



水納島に行ってきます! 左から、ひかり、不二子



"今日が最初の日。残りの人生の"この言葉は、初めて刑務所に行くことにまでなった私に、そんな私を支えて下さった人が贈ってくれた言葉です。

私は令和3年5月30日に道路交通法違反(酒気帯び運転)と覚醒剤取締法違反で逮捕され、実刑となりました。懲役1年6月。うち4月を刑の一部執行猶予3年(保護観察付)未決70日算入の判決です。実質の受刑期間は11ヵ月20日と短く、再犯を防いでほしい結果であると思って受け止め生活しています。これも留置場でどん底にいた私を救って下さった髙橋弁護士のおかげです。先生をはじめ、アパリの方々、ダルクの方々の支援に深く感謝しております。

私は過去にも5回逮捕されています。1回目の執行猶予の判決で初めてダルクに繋がりましたが、あの時は回復に対して自分と向き合うこともせず反省するということをしませんでした。今から8年前のことです。その結果、6か月の入寮生活中にもスリップを繰り返し、退寮してからもアディクションにどっぷり依存していました。

私のアディクションは、薬物、アルコール、摂食障害、クレプトです。

私は14才から薬物、アルコールを使い始め、17才で摂食障害の診断を受けました。盗りたくないと思っても盗ってしまうと私のクレプトは認識していますが、いつからなったのかは定かではありません。初めて盗ったものは幼少期でおしゃぶりでした。寂しかったのかな? 今では全てのアディクションに対して、対人関係の心の屈折が主だと思っています。

初めての逮捕からの6年間はどんどん生活がすさみ、その間に4回も逮捕されますが不起訴の快感、間違った優越感を味わい、心のバランスも最後の方は獣のようになっていた。シラフの状態ではいられないけれど、寝て起きた時に後悔をするけれど、逃げ場が薬物・アルコールの偽りの自分の世界で、止まりませんでした。

初めてダルクに繋がった時に、依存症というものを知ったので、ひどくなっていく時には、自分を依存症じゃないと確認するために、薬物を使う時間を決めて、その時間になったら余っている薬物を捨ててみたり、お酒を飲んでいても、仕事はちゃんとできるし飲んでるってバレないし、一般の人と同じ生活を送れているから私は大丈夫と決めつけて、そのまま止めていればいいのに使ってしまいました。何よりも不起訴で出てきているということがその時の自分の強みだったのかと思います。そんな確認作業をしている時点でもうアディクトになっているのにね・・・

20年です。人生の半分以上をアディクションに支配されていた私は、ボロボロになっても 自分の力では心のブレーキを、行動を止められませんでした。

普段私は、車の運転をしません。今までの人生で10回にも満たないでしょう。そんな私があの日、運転をして警察署へ向かいました。同時期に私は覚醒剤で逮捕されるのは決まっていたのですが、勿論? あの日は身体に覚醒剤は入ってないし、起きてすぐ動いたのでお酒を飲んでいませんでした。しかし、向かっている最中というか、署の目の前に着いた時に警察の方々に止められました。あちらは事前に私が来ることは知っていて、お酒の飲みようも知られていました。だからアルコールの検査を求められました。その場で現行犯逮捕されました。前日のお酒(数時間前の方が正しいですね)が分解されていないことの認識力や、自分の状態で運転(しかも慣れていないのに)して良いかの判断力も大きく欠如していました。事故を起こさなかったのが唯一の救いです。

私は、どうしても認められませんでした。今までの頭脳戦と謳っていたのは誰だという程に、否認しかできませんでした。当然2件とも起訴されました。通知がきた時、泣き崩れました。鈍った思考でこの先をみて、「刑務所」。私は絶対に行かない所と思っていました。何日か経ち、少しずつシラフになってきました。死にたいと思いました。でもドラマみたく死ねません。私はこの先、どうなるんだろうかと考えました。

コラム

支援につなげる覚せい剤事件の弁護術(22)

理事・嘱託研究員・弁護士 髙橋 洋平

今年は猛暑で暑い日が続いていますが、お元気でお過ごしですか。

弁護人の仕事は裁判が終わるまで。確かにそうですが、支援としてはその後のフォローがむしろ大切です。最近、刑務所に面会に行く機会がありました。その時に思ったことを簡単にご紹介したいと思います。

ある方は、裁判の時にダルクに行くという約束し、その時の気持ちのまま、ダルクに行くことを楽しみにしていました。 ダルクに行くことを前向きに捉えて、今度こそ薬物をやめるのだと意気込んでいました。ある別の方は、裁判の時にダル クに行くと約束しましたが、その後、気が変わり、ダルクに行くことを拒否していました。

長い受刑生活の中で、当初の気持ちを維持できる方もいれば、そうでもない方もいるのが実際のところです。もちろん、初心貫徹できればよいのでしょうが、月日が経てば経つほど気持ちに変化してしまうのも人の本来的な傾向。仕方ないことです。

問題は、気持ちが変化したことよりも、今後どのように生きていくか具体的なイメージができていないことです。ダルクに行けば、プログラムを中心とした具体的な生活があります。ダルクに行かない場合はどうでしょうか。まずはどこに住むのか。引受人はどうするか。仕事は何をするのか。その他にも自分で決めなければならないことはたくさんあります。これが人生といえば人生ですが、刑務所生活はあまりにも日常生活と乖離しすぎていて、そもそも具体的なイメージを持ちにくいのです。それでも何とかなるはず。そう思わないとやっていけません。出所時には、もう刑務所に戻ることはないと固く誓っても、気が付いてみると、以前と同じような生活環境になり、トラブル続きの生活に。そんな悪循環に陥りやすいことは容易に想像できるところです。

ではどうしたらよいのか。自分で決めることです。自分で決めたことならば後悔しないはずです。もし失敗したら・・・。そんなことは考えたくないですが、その時にこそ、ダルクの門を叩けばよいのです。遅くはありません。その時がちょうどよいタイミングです。ダルクは刑務所と異なり、強制的に入れられる場所ではありません。自主的に行くところです。自分で行きたいと思った時がベストなタイミングです。

昨日、出所した方から連絡がありました。その方も初志貫徹したわけではありませんでしたが、これからの生活を真剣に考えている様子でした。同じ過ちをしないと誓って裁判を受け、長い刑務所生活を経て、ついに社会復帰。ダルクに行かなかったからといってダメだとは思いません。自分で納得する道を決められたのであれば、むしろ歓迎すべき結論だと思います。

刑務所面会で大切にしていることは、「ダルクに行く、行かない」ではなく、どのように生きていくのかという大きな課題に向き合うこと。今回も素敵な出会いがたくさんありました。出会った方々には心から感謝する次第であり、今後とも微力ながらお力になれれば私としても嬉しいかぎりです。

Willのコラム

心のつぶやき日記(1)

施設長 タケ

Willが6月に開所してからあっという間に3か月が経ちました。日々、施設内外での作業やプログラムを行っています。まだまだ利用者も少ないですが、皆で頑張って取り組んでいます。

作業での一人あたり平均工賃も20,000円を超えてくる一方、寮生活のメンバーにとっては生活費と工賃の使い方も課題となってきます。生活費と合わせればなかなかの額です。

お金の使い方、というのも依存症者にとって重要な課題です。社会に出ていく中で、失敗することが非常に多い。これは直接依存対象に使ってしまう、というだけではありません。使い方の優先順位、収入と支出のバランス。必要なところに使い、必要な支払いをし、必要なお金を残す。どこかで無理をしたり、本来生活上お金をかけるべきところにかけないことで、様々なバランスは崩れていきますし、生活も無責任でいい加減になっていく。結果として、悪い状況を招くことになります。

施設や病院でお金を管理されているところから、いきなり自分で管理する状況になると、自分の考えではうまくやっているつもりでも生活バランスが崩れていきやすくなります。Willではお金の使い方についてもプログラムを交えて支援しています。

今までこまめに生活費を渡されたり、施設にお金を預けたり、場合によっては小遣い帳で生活費の管理を受けたり。しかし安定した自立を目指す中でいつまでも管理されているわけにはいきません。練習の中で小さな失敗を経験しながら、社会での大きな失敗を避けられるようになることがとても大切なのです。



ウイルの事務所の作業風景



クリニックのトイレの 清掃作業

一人当たりの工賃です が、全国平均だと約1万 6千のところ、Willでは 2万円を超えています。 フェローシップ・ニュース

NPO法人アパリは、群馬 県藤岡市にある藤岡ダル クを運営しています。 同施設の入寮者からの メッセージをお届けしま す!





藤岡まつり市民パレード に参加



鮎川で川遊び

藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

「信じること」

ザッキー

自分は藤岡ダルクに入寮しているザッキーといいます。自分は2人兄弟の長男として大阪で生まれました。家族構成は父、母、3つ上の姉がいて4人家族で、ずっと大阪で育ってきました。小さい頃の自分は家族の中でも引っ込み思案で人見知りが強く、何に対しても消極的な子でした。家の中ではざっくばらんに話すことができず、いつも兄弟喧嘩をすると両親に姉と自分を比較されて、いつも自分ばかり叱られるので怖かったです。

小学校に入ると自分は全く興味がないのに両親に無理矢理習い事ばかりさせられました。それは自分にとってとても辛かったんです。自分から友達を作ることもできなくて、友達といるよりも一人でいる方が好きな子でした。だけど、やっぱり独りぼっちでいるのは寂しいので、よく賑やかな場所に行っていました。それから中高大と進み小学校の頃とそんなに変わらなかった子ども時代を過ごしました。友達は少なく冗談を言い合えることもなく、周りからよくからかわれたり弄られたり、時にはいじめられたりもしてきました。そんな子ども時代を過ごしてきたので、自分の性格は陰湿になりひねくれてしまい、家族も周りの友達も誰も信じることができなくて、そんな自分が嫌いでした。

自分が違法薬物を乱用したきっかけは、義兄(姉の旦那)からの虐待と義兄の借金の肩代わりをさせられ、自分の気持ちは「怒り」と「裁き」でいっぱいでした。そんな状態の時に違法薬物と出会い、それから乱用し続けていきました。違法薬物を乱用した当初は、自分は注射を打つことができないので、相手に打ってもらっていました。その瞬間、鳥肌が立って気持ちが楽になったことを覚えています。違法薬物を使うことが自分では悪いことをしているのは分かっていましたが、いつからかファッション感覚で使うようになっていきました。使用する量も回数も増えていき被害妄想や追跡妄想、勘ぐりが止まりませんでした。そのために昼夜逆転の生活が続いたり、食事もろくに取れず気だるくなり仕事を休むようになりました。誰に対しても疑心暗鬼になっていました。ある日、街をぶらついていたら職質を受けて違法薬物を乱用していることが見つかり刑務所に行くことになりました。警察に逮捕された瞬間、その当時の支援者やケースワーカーの顔が浮かび迷惑を掛けてしまって申し訳ないという想いと、もう地元に戻れないなという想いでいっぱいでした。結局、自分はたくさんのものを失ってしまいました。

受刑生活はとても過酷で辛く苦しかったです。やがて出所が近づくにつれて、身元引受を更生保護施設にするかダルクにするか迷った時期がありました。更生保護施設は自分の持病のことや精神疾患があるため、更生保護施設への受け入れを断念せざるを得ませんでした。結局、アパリの弁護士さんからの紹介でダルクマッチングサポートというサービスを使って藤岡ダルクに入寮することが決まりました。

藤岡ダルクに入寮ができて繋がった当初は義兄のことが頭から離れず過去に虐待を受けていたこともあり、義兄がダルクに来るかもしれないという不安や恐怖に怯えていました。そのため仲間を見るだけで身構えたり怯えたりして、全てが敵に見えてしまい仲間の輪の中に入るのがとても難しかったです。

藤岡ダルクには藤岡琉球太鼓というエイサープログラムがあります。自分はエイサーが嫌でした。年齢も周りの仲間たちより若くないしあまりやる気もなく、セルフケアの時間を割いてまでやる必要があるのかと疑問に感じていました。それでも仲間たちはそんな自分に声を掛けてくれて「エイサーデビューするまで俺たちの言うことを信じて、一緒にやろうよ!」と飽きずに誘い続けてくれました。

特定非営利活動法人 アジア太平洋地域アディクション研究所

仲間の期待に応えなきゃいけないと思いました。仲間に信用されているんだなあとも感じました。エイサーを教えてもらって謙虚な気持ちや感謝の気持ちを持つこと、やる気を出せば継続できることや仲間の輪の中にいれば大丈夫だということに気付けました。

これまでは、何をやっても途中で挫折してしまい薬物を乱用することで補っていましたが、辛いときや苦しいときに仲間に助けを求めることで、自分自身が楽になれることがよく分かりました。先行く仲間が信じられるようになりました。自分のセルフケアの時間を利用して仲間と二人三脚で夜練に励んだ結果、時間はかかったけど自分もエイサーデビューすることができました。本番で初めて舞台に立ったときはとても嬉しかったです。それからダルク生活を続けていく中でスタッフとの面談があり、B型就労に就いて社会復帰していきたいことを伝え、今年の6月からエリア高崎に通所しB型就労を開始しました。

B型就労ではスーパーの清掃や農作業をやっています。スーパーの清掃はバックヤードにある 床やトイレ清掃を行い、農作業は炎天下の中で雑草抜きや野菜の収穫などを行っています。エ イサーを通してやってきたことが今の活動に役に立っていると思います。今まで自分になかっ た責任感が生まれました。仲間と共同作業をやっていて辛いなと苦しいなと感じることはあり ますが、仲間に手助けしてもらい自分の負担も軽くなって、随分と助かっています。

クリーンバースデーの時にプレゼントされた色紙の中に「仲間を信じろ!」と言うメッセージが書かれていて、それが自分の回復のテーマになっています。今の自分の回復に自信はありませんが、これまでだったらありのままの自分を出せなかったけど、今では少しずつ仲間たちの中で自分を出せるようになってきています。人のことを疑っていたけど、やっと信じられるようになってきました。

最後に、社会復帰に向けてもう同じ過ちを繰り返さないで、恥ずかしくない行動を取って仕事を継続してこれからも頑張っていきたいと思います。

アパリは薬物検査キットを販売しています!!

薬物検査は、クリーンであることを証明できるとともに、使ったことを知られてしまうから止めておこうというブレーキにもなります。日本では薬物検査キットを個人には販売していないので、欲しくても入手できなくて困っている方が多いです。

そこでアパリでは、誰でも簡単に薬物検査キットが使えるように、 AmazonとShopifyと自社販売で次の3種類の商品を販売してい ます。

こちらから購入してください。https://apari.or.jp/testkit/



覚醒剤尿検査 キット 【1個1,540円 1箱25個入り 30,800円】



9種類の薬物を 検出するマルチ タイプ 尿検査キット 【1個2,200円 1箱25個入り 44,000円】



5種類の薬物を 検出できるマル チタイプ 唾液検査キット 【1個2,200円 1箱25個入り 44,000円】

※ 価格は全て 税込み、送料込 みです。

DIAGNOSTIC

EC TEST



群馬県こころの健康 センター施設見学にて (スマープ見学)



ゴスペルプログラム 練習風景

嗜癖行動家族教室の テーマが新しくなりました!

第1回 発達障がいとは

第2回 発達障がいの診断 法

第3回 発達障がいの治療

第4回 発達障がいと依存 症との関係

第5回 発達障がいの人間 関係

第6回 発達障がいの回復 とは

第7回 発達障がいのため の社会資源

第8回 まとめ

依存症のご家族の方、また 発達障がいのご家族の方 がご参加いただけます。



特定非営利活動法人 アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部 〒162-0055

東京都新宿区余丁町14-4

AICt ル1階

電話: 03-5925-8848 FAX: 03-5925-8984 Email: info@apari.or.jp

○藤岡ダルク 〒375-0047

群馬県藤岡市上日野2594番地

電話: 0274-28-0311 FAX: 0274-28-0313

〇入寮費:月額13万円+生活費 1日千円(初月のみ14.5万円)

(税別)

*生活保護の方も可能

〇入寮条件:依存症から回復 及び自立をしようとしている

本人。男性のみ。

〇入寮期間:個人により差が

あります。

https://fujiokadarc.com/





2019年7月よりホームページが新しくなりました。ぜひご覧ください。

https://apari.or.jp https://www.facebook.com/

AsiaPacificAddictionResearchInstitute/

発行責任者: 志立玲子 2023年9月1日発行 定価 1部 100円

<司法サポートのご案内>

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、 再犯防止に向けた何の取り組みもないまま 執行猶予の判決を受け、また薬物のある日 常に戻るしかなかった日本において、初めて 刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みを 2000年7月からしています。

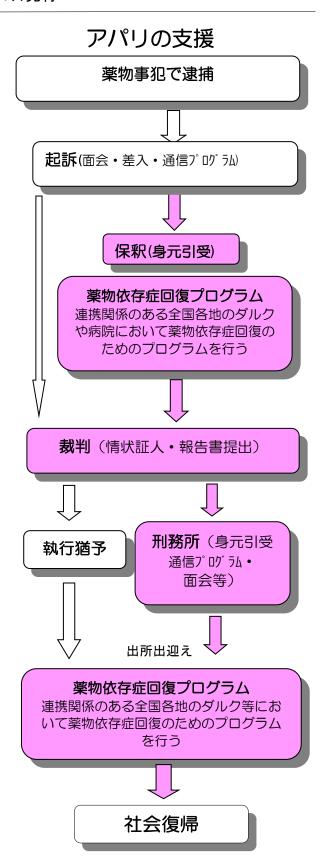
保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。 保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

ギャンブルの問題が原因で逮捕された方や クレプトマニアの方の司法サポートも行って います。

[料金:コーディネート費用として20万円(税別)。 交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族の相 談もお受けしています。

【お問合せは東京本部まで】



<アパリ家族教室スケジュール·東京>

第1月曜	連続講座	土曜	嗜癖行動家族教室
9/4(月) 13:30~ 18:30~	第3回 薬物依存症の心にある2つの考え	9/9(土) 17:00~	第4回 発達障がいと依存症の関係
10/2(月) 13:30~ 18:30~	第4回 本人・家族の心の成長- 自律心・自尊心を伸ばす関わり	1 0/14 (土) 17:00~	第5回 発達障がいの人間関係
11/6(月) 13:30~ 18:30~	第5回 気持ちの回復: 家族自身の気持ちと本人の気持ち の両方を大事にする	11/11(土) 17:00~	第6回 虐待の人間関係
12/4(月) 13:30~ 18:30~	第6回 子どもの成長を助ける 関わりについて	1 2/9(土) 17:00~	第7回 治療資源: コミュニティ・ケア

【対象】ご家族、支援者等(本人は参加できません)

連続講座と嗜癖行動家族教室は全8回ですが、どの回からでも参加できます。

【場所】アパリ東京本部 【参加費】3,000円 (2名以上の場合は4,000円)

連続講座 講師: 志立玲子(精神保健福祉士・公認心理師)

進藤俊明(青梅アライブ・精神保健福祉士)

嗜癖行動 講師: 梅野充(アパリクリニック精神科医)、志立玲子